

Professional Design Camp

002

作る人のHappy、食べる人のHappy —農と食の未来—

2016.1.22. (金)~1.24(日) 京都リサーチパーク

プロフェッショナル・デザインキャンプは、参加者同士の価値協創を通じて、未来に求められる新たな価値を生み出し、そのプロセスを学びあう場です。様々な企業から集う参加者でチームを組み、リードカンパニーが提供する先進的なテーマについて、3日間で新たな価値の創出を試みていただきます。

本デザインキャンプでは、異業種から集う参加者との議論で得られる気付きや、各回のテーマに対する深い理解を得られるだけでなく、価値協創のためのデザインプロセスも学び取っていただけます。また、本キャンプを通じて皆様が協創した価値やアイデアは、それぞれの所属組織に持ち帰ったり、参加企業との協業を深めたりして、より具体的な事業に転換していくことも見込めます。本デザインキャンプの成果として皆様が得る学びや気付き、協創した新たな価値は、今後の研究開発や事業推進に自由に活用していただけます。

価値協創のためのデザインプロセスを学びたい方や、異業種とのコラボレーション、新規事業領域の探索に関心がある方のご参加をお待ちしております。



テーマ概要

私たちは、[食]べることを毎日欠かしません。[農]業は、そんな私たちの暮らしを支えています。一方で、これら当たり前に見える生活の営みにも、多くの課題が存在しています。足元ではフードロスや生産者の高齢化(後継者不足)が、将来には食糧不足(あるいは不均衡配分)が懸念され、数え上げればきりがありません。

そこで今回、農と食の未来に向けて、食べ物を作る人、それを食べる人の両方のHappyをデザインすることをテーマに掲げました。生産者だけに着目した創意工夫では、食べる人がHappyになるとは限りません。逆もしかりです。私たちの食は複雑で巧妙なシステムの上に成立しています。

「作る→加工する→輸送する→売る/買う→調理する→食べる」などの一連の流れを考慮できる、鳥瞰的な視座に立ったアイデアが求められています。さまざまな観点が求められるテーマではありますが、多様な専門を持った方が集う場で、農と食の未来を照らすヒントが見いだせればと考えています。

今回のデザインキャンプでは、こうしたテーマの下、システム全体を考慮しながら未来の価値を協創するプロセスを体験していただく予定です。複雑なシステム全体を見渡し、その未来を見通すこと、そして、局所的で非現実的な解に陥らずに、システム全体をより良くするためのデザインを学びあいます。こうした鳥瞰的な視座に立ったデザインプロセスは、食と農に限らず、複雑なバリューチェーンを伴う様々な領域で応用でき、皆様のお役に立つものと考えています。



テーマをいただいたリードカンパニーからのメッセージ

三菱電機株式会社 デザイン研究所 研究員 中島 康祐

三菱電機は電機メーカーです。今回のテーマからは一見遠い存在です。しかし、「農」や「食」に関するさまざまな課題に目を向けたとき、当社の技術は、それらを解決できる可能性を秘めています。そこでデザイン研究所では、理念の「デザインの行き先は、ひと」に基づいて、「農」や「食」に関わる方から生の声を聞く活動を進めています。一例ですが、生産者は消費者の生の声や反応を知ることは難しく、消費者との距離が遠いことに気がつきました。現代の食生活は、多くの人が介在し、さまざまな段階を経ることで、初めて成立しています。こうした仕組みは豊かな食を実現してきた一方で、作る人と食べる人を隔てていたのかもしれない。この活動を通じて、人の気持ちに寄り添ったソリューションの必要性を実感するとともに、一企業だけでなく、多くの方と力を合わせなければ解決できない課題が多いことがわかりました。今回のデザインキャンプは、参加いただく皆様と一緒に、こうした課題を共有し、解決に向けて取り組めるチャンスになると期待しています。皆様とともに進めるデザイン活動をも楽しみにしています。

ヤマハ発動機株式会社 UMS事業推進部 開発部 部長 坂本 修

ヤマハ発動機は「世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する」ことを目的に、人々の夢を知恵と情熱で実現し、つねに「次の感動」を期待される企業、「感動創造企業」をめざして、二輪車や船外機、ボート、ゴルフカートなどを提供してきました。そして、1987年には世界で初めて農薬散布用の産業用無人ヘリコプタ実用化に成功。今では、日本の稲作の1/3は無人ヘリコプタによる散布となり、日本の農業になくてはならないものとなりました。さらに「農業を空から創る」をスローガンにして無人ヘリコプタの使用用途の拡大を目指し、農作物の育成状況をみるリモートセンシングや農作物を運ぶ輸送用途などの取り組みが検討されています。また、当社のボートやゴルフカートを無人化しての無人船や無人車両による農業や漁業への取り組みも考えられています。

今回、このデザインキャンプにより、無人ヘリコプタだけではなく無人船や無人車両をはじめとした無人化システムが「農と食の未来」にどのように貢献していけば、「作る人のHappy、食べる人のHappy」が成し遂げられるのか、ぜひ皆様と一緒に考えていきたいと思っております。



カリキュラム (予定)

	1/22(金)	1/23(土)	1/24(日)
10:00	イントロダクション ・プログラム概要 ・オープニングトーク (テーマ: 農と食) ・未来洞察に関するミニレクチャー	スキャンングクラスターの策定 ・想定外な社会変化仮説	未来シナリオ発表
12:00	ランチ	ランチ	ランチ
13:00	テーマに関するインプット ・農業機械について ・食品流通について	強制発想による未来シナリオ創造 ・アイディエーション ・アイデア統合	リフレクション ・振り返り ・組織知としてどう活用するか
15:00	未来 이슈ーの策定 ・農と食のシステム/系の未来を考える	・機会領域としてシナリオライティング	※15時までに終了予定
18:30	スキャンングの宿題	・プロトタイプング (プレゼン準備)	
19:00		懇親会	



プログラムから得られるメリット

- 農と食を「システム」と捉える視点と、その未来課題を知る (UNDERSTAND)
- 不連続な未来のビジネス機会領域を実践的に発想する (CREATION)
- 未来アイデアのプレゼンテーションにより共感者を集める (INVOLVING)



メンバー

■ リードカンパニー

- 三菱電機株式会社
- ヤマハ発動機株式会社

■ 参加者

若手 (入社5~15年) 以上の方で、以下の何れかに該当する方

- ・ イノベーションに意欲がある
- ・ 異業種とのコラボレーションに関心がある
- ・ 多様なバックグラウンド、性別、国籍 (国際経験)



講師

「食」と「農」にまつわるレクチャー

- 農業機械の自動化と情報化： 京都大学農学研究科 飯田 訓久 教授
- ポストハーベスト技術とその情報化： 京都大学農学研究科 近藤 直 教授



プログラム運営

(株)日本総合研究所 未来デザイン・ラボと(株)博報堂により、不確実な未来変化や課題を洞察しながらイノベーションの機会領域を創発する「未来洞察ワークショップ」のプログラム提供と、ファシリテーションを行います。特に未来変化の兆しを集めたスキャニングマテリアルは、線形予測に陥らないための外部刺激として提供するユニークなものです。

昨年度の様子・参加者の声

昨年度は、2014.11.18~20の3日間で「2025年 徒歩5分圏の空間の暮らし方を考える」というテーマで実施いたしました。

■ 昨年度のレポート

http://designinnovation.jp/program/professional-design-camp/report_001.html

- 異業種の方々との議論により、自分が持っていない「ものの見方」に触れることができました
- 自社のメンバーではありえない思いつき、発想が刺激になりました
- イノベーションのプログラムを身内で行うのではなく、他社・多業種の人とグループワークで行うことの効果は、思いのほか大きいと感じました



 **開催概要**

日程	2016年1月22日(金)～24日(日)
会場	京都リサーチパーク 京都市下京区中堂寺南町134
定員	30名程度
参加費	正会員A 165,000円(税込) ※早期申込み団体割引制度 11月30日までにお申し込みのA会員は3名以上で1名あたり 120,000円(税込) ※人数枠での申込み可能 (参加者名は後日ご連絡ください) 正会員B 200,000円(税込) 非会員 300,000円(税込)
申込先	https://pro.form-mailer.jp/fms/013f061a86942
申込期限	2015年12月17日(木)
主催	デザインイノベーションコンソーシアム
後援	京都大学デザイン学大学院連携プログラム(予定)
協力	株式会社博報堂 株式会社日本総合研究所
問合せ	デザインイノベーションコンソーシアム事務局 京都リサーチパーク株式会社 tel: 075-315-8522 mail:info@designinnovation.jp

■参加に関するご留意事項 お申し込みの前にご確認ください

プロフェッショナル・デザインキャンプ（以下「キャンプ」という。）で生じたアイデアについては、共創の場としての性格上、既に産業財産権が出願されているものを除き、公知のものとし、その活用は自由とします。キャンプで新規に生じた著作権については、著作者に帰属しますが、デザインイノベーションコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）が作成する資料への使用並びに参加者及び参加者所属組織への再使用を許諾するものとします。

キャンプ実施のために必要となる既存の知財・研究成果・データは、参加者に予めその帰属を明示するものとします。ただし、当該知財・研究成果・データに関するNDA を参加者に求めることはしないものとします。

キャンプの結果は、主催・後援団体の発表会・Web・ニュースレター・各種展示を通じて公開します。

キャンプには、3日間通してのご参加をお願いいたします。

キャンプの様子は、写真・ビデオ撮影を行わせていただきます。また、撮影した写真・動画は、コンソーシアム及び京都大学デザインスクールの広報手段、講演資料、マスメディア提供資料、書籍などに用いる場合があります。個人が特定されないよう加工することをご希望の方は、キャンプ期間中に実行委員会に連絡をお願い致します。各グループの成果の概要は、Webやパンフレット等の各種広報物にて公開させていただきます。